

## 1998国際シンポジウム “人類生気象学”

— より快適な生活環境を求めて —

日時： 1998年8月31日～9月1、2、3日

場所： 山梨県環境科学研究所（富士吉田市）

主催者名： 人類生気象学国際シンポジウム組織委員会、山梨県環境科学研究所、北里研究所

後援者名： 日本生気象学会、国際生気象学会、国際生理連合（温熱生理学分科会）

展望と目的：地球温暖化を始めとした地球規模の気候変動が予測され、各国の協力の下でさまざまな研究が進められている。この意味に於いて気候の変動がヒトの健康、文化や社会などへ、さらに逆に人が気候へ及ぼす影響に関する研究が重要な課題となる。生気象学Biometeorologyは「大気の」物理的、化学的環境条件が生体に及ぼす直接、間接の影響を研究する学問」であり学際的な研究領域である。この国際シンポジウムでは、疫学、病理学、生理学、工学、社会学、建築学、及び気候学等を含む世界中の人類生気象学研究者が一同に会し、議論をたたかわす機会を得る事ができるので、本組織委員会はこのシンポジウムがより安全で、より快適な生活環境をつくりだす我々の努力に対して将来おおく貢献することを期待している。

組織委員会：会長：入来正躬（山梨医科大学名誉教授、山梨県環境科学研究所所長）、副会長及び会計：稲葉豊（順天堂大学教授）、事務総長：柴田政章（山梨県環境科学研究所部長）、プログラム委員長：彼末一之（大阪大学教授）

顧問委員：菊池正一（順天堂大学名誉教授）、吉野正敏（筑波大学名誉教授）、永坂鉄夫（金沢大学名誉教授）、アンデュレス・オウリシエムス（オーストラリア クイーンズランド大学教授）、ピーター・ヘッペ（ドイツ ルードヴィッヒ・マクシミリアン大学教授）

会期・会議の日程：8月31日 開会式、招待講演、一般研究発表  
9月1日 招待講演、一般研究発表、リセプション  
9月2日 招待講演、一般研究発表、閉会式  
9月3日 一般公開 パネルディスカッション（日本語）

主要テーマ：

第一部

- 1 ヒトの健康に影響を与える環境因子（気候、罹患率、死亡率）
- 2 ヒトの生活と室内気候（室内気候、空気の質）
- 3 ヒトの生活と地域気候（都市気候、空気の質）

第二部

- 4 環境変化にたいする適応のメカニズム（体温調節、適応メカニズム）
- 5 ヒトの生活と環境における生物学的リズム（体内生物時計、光周期性）
- 6 ヒトの健康と温度環境（高体温、発熱、低体温）

第三部

- 7 生気象学研究のモデル（気象変化予知）
- 8 社会学的生気象学（気候の概念、政策決定）

各テーマは外国人招待者1～2名を含む5～6人の招待講演者で構成される。他の国内外一般参加者の研究発表はポスター形式とする。日本人参加者数は60余名、外国人参加者数は30余名となると予想される。問い合わせ先：柴田政章（山梨県環境科学研究所：電話0555-72-6184、ファックス0555-72-6205、電子メールmshiba-ta@yies.pref.yamanashi.jp）

## 第2回「海洋と二酸化炭素」国際シンポジウム

2<sup>nd</sup> International Symposium on CO<sub>2</sub> in the Oceans

1999年1月18日から22日にかけて、上記のシンポジウムがつくば市の研究交流センターで開催されます。このシンポジウムは二回目ですが、一回目は1996年の1月に中米のプエルト・リコで開催されました。大気中で現在増加しつつあるCO<sub>2</sub>に対して、海洋がどのような役割を果しているのかを明らかにするのがこのシンポジウムの目的のひとつです。海水との物理・化学反応、呼応や光合成などの生物活動によって、CO<sub>2</sub>は海洋中では大気中と比べてはるかに大きな変動を示します。この大きな変動を通して、人間活動によって放出されたCO<sub>2</sub>がどの程度海に吸収されているのかといったことも議論されます。詳しい情報はインターネットのウェブページ<http://www-cger.nies.go.jp>をご覧ください。

## 西暦2000年酸性雨国際学会の開催

酸性雨問題は地球生態系の中で生きる人類の歴史と今後のあり方を問う環境問題であり、特に東アジアでは21世紀にかけて更に問題が拡大することが懸念されている。

このような背景を受けて西暦2000年には第6回酸性雨国際学会が日本につくばで開催される（第一回大会1975年アメリカ、第二回大会1980年ノルウェー、第三回1985年カナダ、第四回1990年英国、第五回1995年スウェーデン）。

西暦2000年酸性雨国際学会（Acid rain 2000）では、酸性汚染物質の発生、対策、長距離越境輸送、陸水生態系や森林生態系への影響、文化財影響、次世代を配慮した環境教育等の諸課題が取りあげられる予定である。本学会では酸性雨問題の深刻な中国重慶市エクスカージョン（12月3日－8日）等も計画されている。

- 開催日 2000年 12月10-16日
- 開催場所 茨城県つくば市 つくば国際会議場  
(1999年6月完成予定)
- 参加予定者数 約1200名
- 参加予定国数 47カ国
- 連絡問い合わせ先

Secretariat of Acid Rain 2000

(株) アイシーエス企画内

西暦2000年酸性雨国際学会担当 (滝沢)

Tel. 03-3263-6474

Fax 03-3263-7077

E-mail Acid2000@ics-inc.co.jp

## 10Th Global Warming International Conference (第10回地球温暖化国際会議)

Climate, Environment and Health for the 21st century (21世紀の気候、環境と健康)

May 5-9, 1999 : YIES, Fuji-Yoshida, Yamanashi, Japan (1999年5月5-9日、富士吉田市、山梨県環境科学研究所)

The GW Conference

After The UNCED in Rio de Janeiro at 1992 and The COP3 in Kyoto at 1997, the participants in nongovernmental and governmental organization will define the efforts to mitigate global warming and environmental pollution. The Global Warming International Center and the Yamanashi Institute of Environmental Sciences are delighted to host GW10 at the foot of Mt. Fuji-Yoshida, Yamanashi, Japan. All of the Participants can exchange point of views, share research results, start cooperation on projects, and meet with experts various fields in the world.

〔学会の趣旨〕

1992年リオデジャネイロでのUNCEDおよび1997年京都でのCOP3開催の後、非政府及び政府組織により地球温暖化や環境汚染を軽減する努力の必要が強調されている。今回、第10回地球温暖化国際会議を、地球温暖化国際センターと山梨県の共催で、富士吉田市の山梨県環境科学研究所にて行う。本学会は、参加者が意見を交換し、研究成果を共有し、プロジェクト研究を組み、世界の種々の専門領域のエキスパートと一同に会し、得られた成果を政策に反映させるよう促すことを目的としている。

Host Organization

Organizing Committee of Warming International Conference 第10回地球温暖化国際会議準備委員会

Conference Chairpersons 学会長

Masami IRIKI, Yamanashi Institute of Environmental Sciences (YIES) Fuji-Yoshida, Yamanashi, Japan

山梨県富士吉田市山梨県環境科学研究所

Sinyan SHEN, Global Warming International Center (GWIC), Woodridge, Illinois, USA

Sessions and Topical Highlights

(I) Global Warming and Climate Change 地球温暖化と気候変化

1. Emission Scenarios, Global Warming and Climate Change 放出シナリオ、地球温暖化と気候変化

2. Impacts on Ecosystems, Resources, Agriculture, Hydrology and Energy

自然生態系、資源、農業、水文学とエネルギーへの影響

3. Impacts on Public Health and Biometeorological Aspects of Adaptation 公衆衛生への影響と順応の生気気象学的研究

4. Strategies for Mitigation and Policies for Society 緩和の戦略と社会の政策

(II) Sustainable Environment and Health for the 21st century 21世紀の環境と健康

1. Environmental Assessment and Development 環境アセスメントと発展

2. Environmental Pollution and Health 環境汚染と健康

3. Rural Communities and Health 農村社会と健康

4. Environmental Conservation and Pollution Control 環境保護と汚染防止

Conference Office (学会事務局)

安藤 満 茨城県つくば市小野川16-2 国立環境研究所(NIES) 地域環境研究グループ 〒305-0053

電話0298-50-2395 Fax0298-50-2548 e-mail : mando@nies.go.jp

宮崎忠国 山梨県富士吉田市上吉田字剣丸尾5597-1 山梨県環境科学研究所(YIES) 〒403-0005

電話0555-72-6186 Fax0555-72-6205 e-mail : miyazaki@yies.pref. yamanashi.jp